

2018年度 第2四半期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q： 上期の事業利益は274億円であったが、通期業績予想の800億円達成に向けての進捗はどう評価しているのか。また、下期にどのような取り組みを実施することで、通期業績予想を達成する見込みなのか。

A： インクジェットプリンターのカートリッジモデル本体において、競合の想定以上の価格攻勢があった。エプソンは価格維持施策を堅持し、販売を抑制したことで在庫が増加した。その結果、一時的に損失を計上したため、上期の事業利益は計画に対して若干の未達だった。ただし、この損失は、今後の販売・生産の適切なコントロールにより解消予定であり、通期業績予想への大きな影響は無い。

これ以外では、大容量インクタンクモデルをはじめ、商業・産業向け大判プリンター、プロジェクターなどの主要製品は前年同期比でも増加しており、概ね計画に沿った進捗だった。

下期は、年末商戦を迎える第3四半期や、オフィス向けや商業・産業向けの需要が活性化する第4四半期を控え、大容量インクタンクモデルの新モデル投入や、高速ラインインクジェット複合機、大判プリンターなどの拡販に取り組む。

Q： 今回の通期業績予想には、前回開示から為替前提を変更したことによる影響はどの程度あるのか。

A： 売上収益には、340億円ほどのプラス影響。事業利益には20億円ほどのマイナス影響がある。

※業績予想開示にあたり、為替影響額などの補正を行い、売上収益は前回予想から400億円の上方修正とした。

Q： 販売費および一般管理費の増加が続いているが、下期も同様な傾向が継続するのか。

A： これらの費用は、エプソンが強化している、オフィスや商業・産業分野での販売体制強化やブランド価値向上に向けての費用であり、下期も継続的に強化に取り組む。ただし、外部環境の変化に対応し、効率的な費用執行に努める。

Q： 通期業績予想に織り込んだ、一部所有資産の売却による影響額を教えてください。

A： キャッシュ・フロー計算書では、投資キャッシュ・フローに約90億円を織り込み、包括利益計算書では、その他の営業収益に約30億円の影響を織り込んだ。

● プリンティングソリューションズ

Q： プリンター事業におけるインクジェットプリンターの製品別の動向を教えてください。

A： 大容量インクタンクモデルは、南米の一部において、通貨下落の進行に対して、価格調整を実施した影響もあり、販売目標には若干の未達であったが、他の地域では堅調に推移し、全体では計画通りとなった。

今後も、モノクロモデルの新製品投入、マルチファンクションモデルの投入などのラインアップ拡充や、カラーバリエーションを展開し、さらなるプリント需要の獲得を進めていく。

インクカートリッジモデル本体は、競合による価格攻勢が継続している。エプソンは価格維持施策を堅持する方針に変更は無い。インクは、大容量インクタンクモデルへのシフトを進めている過程において、インクカートリッジタイ

プの本体稼働台数の減少により、前年度からは減少しているが、想定の範囲内の減少。今後も大容量インクタンクモデルへのシフトを進め、インク売上に依存しないビジネスモデルへの転換を加速していく。

高速ラインインクジェット複合機は、今年度に入ってから販売活動が軌道に乗り始め、大型案件の受注も獲得するなど、成果が上がり始めている。製品のラインアップは、75ppm,100ppmの2タイプであるが、様々なお客様に合わせて料金体系の種類も増やすなどしてきている。今後は、さらに柔軟な価格設定を行うとともに、製品そのものの改良も進めていく。

●ウェアラブル・産業プロダクツ

Q：ロボティクスソリューションズは、下期も厳しい状況が継続するのか。

A：第2四半期に入り、米中貿易摩擦の影響もあり一部地域で需要が減退したが、欧米先進国などでは需要も増加している。また、ロボットの低価格エントリーモデルなどの投入により、これらの需要を確実に取り込む。

以上